

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	平成29年2月13日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100435-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28年 12月 12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地にあり、周りの風景も取り込んで、恵まれた環境にある。少人数で生活感もあり、利用者様はゆったりと生活が出来る。また旬の食材を取り入れたお食事は利用者からも好評で、毎日の食事が楽しみの一つである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地の一角にある事業所周辺は、大きなため池や団地の開発以前からある雑木林が、公園として残された自然豊かな環境である。事業所の大きな窓から木々の紅葉が見られ、季節の移ろいを感じさせる。天気の良い日には、車いすで外に出て、ため池の周囲を歩く人々と挨拶を交わし交流することもある。現在利用者が定員6名のところ3名に減少しているが、毎日併設のデイサービスの利用者との交流を楽しんでいる。施設長を兼ねたデイサービスの管理者が看護師の資格を有しているため、グループホームの利用者の健康観察もしてもらえ、安心感につながっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人を尊重し、その人らしさを支えるため、職員は理念に基づき、やさしい心をやさしい手で、日々その人を支援しております。	職員は、法人の理念をさらにわかりやすくした『やさしい心・やさしい手で』に沿って日々支援をしている。一人ひとりの現存能力を奪うことなく、ゆっくり待つやさしさも合わせて大切にしていこうと職員同士で話し合い、ケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街にあり、自治体にも加入させていただき、利用者様と回覧板を届けに行ったり、行き交う方と挨拶も交わしている。	利用者が、高齢化・重度化したため地域の行事には参加できなくなってきたが、日常の散歩の際に出会う近隣の住民と挨拶をかわすなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、事業所の取り組みを話したり、民生委員さんから地域の様子を知らせていただいたりして、励まし合ったり、助言出来るところは助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんから地域の高齢者の状況をお聞きしたり、施設の状況を話し合ったりして、共感したり、お互いにアドバイスをしあっている。	2ヵ月毎に定期開催をしており、事業所の取り組みについて報告し理解をもらい、また、民生委員から地域の困り事や相談を持ちかけられることもある。貴重な情報交換の場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営委員会に来ていただいたり、介護保険更新の代行で市役所に出向いたり、電話で市役所との連携をとっている。	何かあると直ぐに連絡を取り相談をしている。最近では、空きを解消するための対策についてアドバイスをもらっている。今年度はマイナンバーの申請について問い合わせをし、指導してもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、お一人人背のため車椅子からの転落を防ぐため、家族の許可を得て固定させてもらっている。	身体拘束については、日頃から職員同士でケアの中から気づいたことを出し合って、拘束にあたる行為か否かを話し合い共有している。現在は危険回避のため、車いす利用の際に抑制帯を家族の同意を得て使用している利用者がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いて職員に虐待防止の意識を高め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修により、制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項とつき合わせて丁寧に説明して家族の方の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会には家族の代表として参加していただいたり、面会に来ていただいた時の話をお聞きして、ケアに取り入れたり、また月一度の御便りも発行している。	家族の面会時に利用者の日頃の様子などを話す機会を持つが、意見や要望は少ない。運営推進会議には輪番制で参加をしてもらっている。あまり面会のない家族には月毎のお便りに利用者の様子を記入して報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア上で問題あればケアカンファレンスを開き、情報を共有してケアの向上に努めている。	職員の体制が、デイサービスと兼務になっていることが、グループホーム独自の方針を実行していく上でやや難しいところがある。ケアカンファレンスで職員の意見を聞くのも利用者のケアをしながら行っている。	職員の会議が利用者のケアをしながらという状態を改善して一人ひとりの職員が意見を言う場を確保し、またそれを記録として残され、運営につなげていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や個々の労働状況を把握し、勤務体制をとり、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所との連携に努めている。勉強会・施設長会議を定期的開催するなどしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とコミュニケーションをとることで早期にその方の意志や心境を確認している。家族からの情報も詳しく聞き取り、安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安や要望をお聞きして、その支援に努め、また初期においては随時連絡がとり、不安のないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子をよく観察して、無理のないように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	北緯んはある時は友人のような立場になったり、ある時は家族のような関係で支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行しているすずらん便りで、生活ぶりをお知らせして、本人の暮らしぶりをよく周知していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は車椅子使用でコミュニケーションも上手く出来ない状態で馴染みの人もわからない場所もわからない状態にある。	利用者の重度化で馴染みの人や場との関係を継続は難しい状況にある。また、利用者についての情報を個人のファイルに書き留めているが、職員全員が目を通したという状況は確認されなかった。	日々のケアの中で得た利用者の情報等を職員全員が共有できるように、日報など職員の目に触れる所にスペースを確保して気づきを書き留めて申し送り、ケアに反映されることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は難しいが、職員が仲介して関わりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに変更された例はないが、必要に応じて家族の相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや暮らし方をお聞きすることは非常に難しい状態ではあるが、本人の気持ちを推測してのケアに心がけている。	利用者の重度化により思いや意向を汲み取ることは難しいが、表情などから判断してケアに反映させている。一人ひとりとゆっくり向き合う支援を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や本人に出来るだけ多くの情報をお聞きし、施設での生活にうまく適用できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活を支援していく中で、気づいた事はお互いに情報交換し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々その人の行動、発した言葉を見逃がないように注意し、気づきはみんなと話し合い共有し現状に即しプランを結びつけている。	ケアプランは3ヶ月毎に、また、何か状況が変わった時にはその都度モニタリングをして見直しをしている。介護計画からは、日々のケアの中で利用者の状況をよく観察した目標や支援は読みとれたが、それに対する評価と、カンファレンスで話し合われた内容が確認できなかった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌は、職員は絶えず目を通し、職員間で情報を共有しながら計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な法人研修を行っている。健康管理をsていただく病院の他、その時に応じた病院の受信を定期的に付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんによる大正琴の演奏やハーモニカによる懐かしいメロディを聞いたり、施設の周りの素晴らしい景色をみながら散歩をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診とその時々状態に応じてかかりつけ医の受診を受け、指示を受けながら治療に専念している。	現在入居者の2名が協力医による訪問健診で健康管理をし、1名は入居以前からのかかりつけ医を受診している。その通院は家族が同伴するが、送迎は職員が行っている。デイサービスの管理者が看護師なのでなにかと心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師との連携に努め、緊急時対応・夜間対応及び機能訓練相談等業務を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を図り、ご家族の希望を優先にし、早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医で話し合い、その結果に応じて事業所はその方針を共有しながら、その人の支援に全力を尽くしている。	入居時に看取りについて家族の意見を聞き、事業所では看取りはできないことを伝えている。重度化した終末期には、緊急の場合は病院へ搬送し、その後は法人関連の老人ホームへの移動を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを参考に研修を行い、AEDの使い方等を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をし、職員が戸惑わないよう訓練している。 自治会にも要介護者の名簿を提出し、夜間の避難場所としての言葉もかけてもらっている。	火災、地震想定避難訓練を年4回実施している。そのうち1回は消防署の立ち会いで、利用者が重度化しているため、むやみに移動することはかえって危険があるので、居室のある2階の一部屋に集め、救助を待つ方法を提案された。備蓄も3日ほど用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分の思いや気持ちを伝える事ができないので、その人の気持ちになって、言葉にも気をつけ、その人らしい対応に気をつけている。	トイレ誘導の際、リビングから離れた場所にあるトイレを利用するなどプライバシーを確保している。また、デイサービスの利用者とのやり取りで、時として尊厳を損なわれるようなこともあるので座席についても留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の思いを聞き取り、その実現に向けて支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、体調に合わせて、ゆとりえお持った過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的あるいは希望に応じて移動美容室の利用、また季節に応じた洋服、色、デザインも好みに応じた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けは出来ていないが、その日のメニューを話し合ったり、嗜好品を聞いて、それをメニューにしたり、又食材には旬の物を使い、食事が楽しめる工夫をしている。	調理専任の職員が、旬の食材を使い栄養価や食べ易さを考えたメニューを考え、美味しい料理を提供している。利用者は、毎食黙々と食べることに集中している。現在は、全員揃っての外食はできない状態である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には十分に注意し、とろみをつけたり、お茶の温かさにも気をつけ、目の物を利用した栄養摂取にも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じた口腔ケアが出来るよう、職員は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、その人のやれる力を活かしての排泄の支援に努めております。	排泄パターンをもとに声掛けしてトイレ誘導しているが、臭い等で職員が気づいた時には速やかにトイレに誘い、対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューの野菜や食物繊維の含まれた食材を取り入れたり、水分補給を十分に行い、散歩をするなどで身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂に入る事は身体も疲れるので、およそ週3回はゆっくりと入浴出来るようにしている。入浴剤を使って温泉の気分も味わっていただいている。	週3回入浴を楽しんでいる。重度化している利用者も男性の職員ができるだけ湯船に浸かれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後一人ひとりの状態に合わせてゆっくりとつろいでいただいている。 夜間も。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は個々のファイルに保管し、職員は常時確認出来るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に回覧板を届けに行ったり、洗濯物を取り込んで片づけたりしている。 お花も飾ってコーヒーを飲むなど、雰囲気作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分の行きたいところが伝えられない状態にあり、また車椅子使用のため、一人ひとりの希望に応じた外出は病院の受診くらいである。	利用者の高齢化、重度化でほとんど外出はできていない。それでもお天気のいい日には、近所の民家の花壇や中学校の桜などを観に行くなど、外気に当たり季節を感じる機会をつくるよう支援している。また、自治会の回覧板を届けに同行してもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預り金は施設で管理させていただいているが、お祭りなどイベントに参加した時、本人の希望に応じた買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話の取次ぎの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子使用者が多いので、進路を防がないように気をつけてたり、空調機やカーテンなどを使用したり、居間には季節の花を飾ったりしている。	ほとんどの利用者が日中は1階のリビングでデイサービスの利用者と一緒に過ごしている。大きな窓からは光がよく入り明るく清潔感がある。状態の悪い人・横になりたい人用に静養室が設けられ、2階の居室より静養室で横になる選択をする利用者がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所には季節を感じられる物をおいたり、お花を飾ったりして話しのきっかけになるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場には皆で作った製作物を飾ったり、時期に咲く花を生けたりして、季節感が湧くように工夫している。	居室にはベッドと大きめのクローゼットがあり、きれいに整理整頓されている。日中はほとんど1階のリビングで過ごすため、夜間に寝るだけの利用になっている。各部屋の入口には避難用の防災頭巾が掛けてあり、訓練時には着用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー構造で安全が確保されている。利用者が危険のない生活が送れるよう職員は配慮し、自立に向けて支援をしている。		